



■ 新入会員オリエンテーションに参加して



昨年、入会と同時期にご案内いただいた時は参加できず、ほぼ1年経過したタイミングで都草の概要を知る機会となりました。最初に組織体制や会員状況をお話しいただきました。組織がしっかりしていること、そして、何よりも驚いたのは京都検定1級合格者が3分の1もいらっしゃるということでした。前回、初めて1級を受験して散々な目にあった身としては、すごいところに来てしまったのでは、と若干足がすくむような気がしました。しかし、そんな心配は不要とばかりに、進行を仕切ってくださった熊谷喜輝副理事長はざっくばらんに都草の実情や、部会活動の楽しさをご紹介くださいました。部会活動で知識や経験が身につく、その結果として1級合格ができるというのもありかなと思います。また、これまでの部会活動の成果として資料やデータが充実していることも素晴らしいです。御苑歴史研究会、美化活動、歴史探訪会、都草

わくわく倶楽部など、どれも魅力的な活動でお話を聞いているうちに、これは参加者側にいるより主催者側になった方が、いろいろ苦労はあるかもしれないが、得られるものはその何倍もあるような気がしてきました。近い将来どこかの部会のメンバーとして参画できる様になれればと思っております。

最後になりましたが、オリエンテーションにご参加いただきました伊藤義男専務理事、須田信夫副理事長にも併せて感謝申し上げます。ありがとうございました。(会員 掛川 和彦)

■ 京都御所・御苑ガイド10周年記念行事



京都御所・御苑研究会では、毎週日曜日に御所や御苑のガイドをしています。御苑はとても広いので、4コース（御所、宮家・公家、幕末、御苑東）に分け、参加者に選んでいただいています。参加される方は、京都市内に限らず、大阪や東京などいろいろな地域から来られます。20人程の会員が、それぞれ自分の興味・関心のあるコースを担当して、それぞれの持ち味で、自分自身も楽しみながら見どころを交代で案内しています。

特に今年は、平安時代を描いたNHK大河ドラマ「光る君へ」の舞台として、藤原道長の土御門第や御所の清涼殿、殿上の間でのシーンがたびたび登場しています。参加者の中には視聴者が多く、各ガイドもここぞとばかり、張り切って、自分の持ちネタを披露しています。現在

緑に覆われている御苑は、江戸時代は多くの宮家、公家などの屋敷が立ち並び、公家町とよばれていました。この公家町の情景は、閑院宮邸内で上映されている「VR公家町」をご覧になるとよくわかります。公家町は、幕末には激しい政変の舞台ともなりました。

都草がこのような歴史ある京都御所・御苑の案内を始めて今年で10年になります。そこで、この度10周年記念行事を企画し、11月24日（日）に「京都御苑の魅力を、未来へつなぐ」と銘打って講演会（立命館朱雀キャンパス）を開催します。また、翌週の12月1日（日）にガイドツアー（京都御所・御苑）を実施します。会員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。(理事 水本 博)

■ 文化交流部会「閑臥庵で普茶料理を味わう会」



8月2日（金）昼から、烏丸鞍馬口の閑臥庵において普茶料理を味わう会が開かれました。参加人数は32名。文化交流部会としては久しぶりに大人数での催しでした。

閑臥庵は、山号を端芝山（ずいしざん）という黄檗宗の禅寺です。もともとは後水尾法皇の実弟である梶井常修院の宮邸でしたが、江戸時代前期に後水尾法皇が夢のご託宣を受けて貴船の奥の院から鎮宅霊符神を勧請して開いたお寺です。

普茶料理とは、萬福寺を開山した隠元禅師によって伝えられた中国式精進料理です。基本的に一つの長方形の座卓を4人で囲み、一品ずつの大皿料理を分け合って食べるという様式です。魚肉といった動物性食物を使わないという点は日本式と共通しています。薬膳料理にもつながるものであり、特に昨今の高温による夏バテにもぴったりの料理といえます。

この日は熱中症警戒アラートも出ている暑い一日でしたが、みなさん時間厳守で集まり予定より早く始めることができました。まずは寺の方から本堂の説明を受け、そのあと約1時間半にわたる、庭を眺めながらの会食が始まりました。話もはずんで楽しい時間を過ごすことができました。次から次へと手際よく運ばれる料理はどれもほどよい味付けでおいしくいただきました。量も丁度よく、満足のゆくものであったと思います。

食事が終わってから、本堂の前で全員の記念写真を撮りました。

最後まで参加者全員が楽しそうな様子だったのが、印象的な一日でした。（理事 植山政雄）

■ 美化活動 あれこれ



2024年9月10日、二尊院

私が初めて美化活動に参加したのは、平成22年6月中旬、梅雨の真っ只中の釘抜地藏（石像寺）で、お墓の周りの草抜きや落ち葉掃きなどのお掃除でした。1時間余りのお掃除とご住職の法話などを聴かせていただき、掃除とは自分の心をも磨くことだと納得するとともに清々しく心地よい気持ちになりました。そこから美化活動にはまってしまい、美化部会に入会することになり、現在では主に受付係としてがんばっています。

美化部会として、一番重点をおいていることは、より多くの会員に参加してもらうこと、そして「参加してよかった」と喜んでもらうことです。このため、新規の社寺開拓など魅力ある美化活動となるようがんばっています。

私がお手伝いした中で、特に印象に残っているのが、平成26年4月に実施した京都御所です。修学院離宮も同じですが、宮内庁管轄のため、出入りのチェックが厳しく、事前に京都御所宮内庁事務所に何度も足を運び、参加者全員の住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号などの申請書を提出し、許可をもらいました。

当日は8時半に清所門前に集合し、申請書の名簿と間違いないかチェックを受けて入場、昼食を挟んで掃除を終えたあと、係員さんの案内で御所の中を見学させていただき、16時に終了となりました。

帰り道、参加者から「こういう機会は滅多にないので貴重な体験をさせてもらいよかったです。」との感想をいただき、苦勞が報われたような気持ちになりました。どれだけお役に立てるかわかりませんが、これからも美化部員としてがんばります。（会員 市村 ふみ子）